

安全・安心な市民生活の確保

1	下水道施設の改築・修繕	施策評価	S
取り組みの方向性	<p>●下水道施設の老朽化による道路陥没や排水不良など、市民生活へ重大な影響を及ぼさないよう、維持修繕基準に基づき日常的な維持管理及び、計画的な下水道施設の点検・調査や改築・修繕などの老朽化対策を進めます。また、雨天時浸入水などを原因とする降雨時の汚水量増加の問題について、その対策に取り組みます。</p>	評価理由	<p>ポンプ棟（建築物）の改築・修繕の実施時期を延期しましたが、その他取り組みは、指標（評価）等からおおむね順調に取組が実施されているため、評価を「S」としました。</p>

指標

指標名	R3年度末 (基準)	前々年度 実績値	前年度 実績値	R4年度 実績値	目標 (R10)	評価	説明
1-(1) ポンプ設備整備実施率 (%)	14.6	-	14.6	16.7	29.2	s	整備対応ポンプ設備数/雨水ポンプ場のポンプ設備数×100
1-(2) 管路調査点検実施率 (%)	48.0	-	48.0	94.0	100.0	s	調査点検の実施延長/ストックマネジメント計画（短期計画）の延長×100
1-(3) ポンプ棟（建築物）の改築・修繕実施率 (%)	6.7	-	6.7	6.7	73.3	a	改築・修繕実施数/雨水・汚水ポンプ棟の総数×100

具体的取組

	取組内容	R4年度 目標	前々年度	前年度	達成状況
		R4年度 実績			
1-①	下水道施設の点検・調査結果等に応じて下水道ストックマネジメント計画を修正します。	点検・調査の結果にあわせて、対策工事等の計画を追記修正します。 事業の進捗にあわせて、下水道ストックマネジメント計画を追記修正しました。	-	-	◎
1-②	下水道ストックマネジメント計画に基づく雨水ポンプ場のポンプ設備の整備に取り組みます。	さだポンプ場2号ポンプ設備の分解整備を行います。 さだポンプ場2号ポンプ設備の分解整備を行いました。	-	-	◎
1-③	下水道長寿命化計画及びストックマネジメント計画に基づく管路の改築に取り組みます。	茄子作北町地区において、管路改築を行うための実施設計に取り組みます。 茄子作北町地区において、管路改築を行うための実施設計に取り組みました。	-	-	◎

令和4年度「枚方市下水道ビジョン 2022」 施策評価シート

1-④	下水道ストックマネジメント計画に基づく汚水管路の計画的な点検、調査に取り組みます。	招提元町地区他において、点検約70km、調査約9.2kmに取り組みます。 招提元町地区他において、点検約70km、調査約9.2kmに取り組みました。	-	-	◎
1-⑤	下水道ストックマネジメント計画に基づく下水道施設(汚水)の計画的な改築に取り組みます。	楠葉朝日地区において、約200mの管更生工事を行います。 楠葉朝日地区において、214mの管更生工事を行いました。	-	-	◎
1-⑥	下水道施設(雨水)の維持管理による機能維持と浸水の防除に取り組みます。	週1回、雨水大ポンプ場(全7カ所)の点検を実施します。 雨水大ポンプ場の点検を週1回(毎週火曜日を基本)実施しました。	-	-	◎
1-⑦	下水道ストックマネジメント計画に基づく雨水・汚水ポンプ棟(建築物)の改築・修繕に取り組みます。	北部ポンプ場の老朽化対策工事、安居川ポンプ場と溝谷川ポンプ場の実施設計2件を実施します。 詳細調査の結果、工法の見直しが必要になったため北部ポンプ場の老朽化対策工事をR4年度からR6年度へ順延しました。また、安居川ポンプ場と溝谷川ポンプ場の老朽化対策の実施設計を行いました。	-	-	○

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

安全・安心な市民生活の確保

2	下水道施設の耐震化	施策評価	A
取り組みの方向性	<p>●地震時も下水道の機能が確保できるよう、被災による影響が大きい緊急輸送路などに埋設されている管渠や軌道・河川を横断している管渠及びポンプ場などの重要な施設から計画的に耐震化を進めます。</p>	<p>評価理由 管路の更生工事やポンプ場の耐震化工事及び耐震診断について一部年度繰越を行ったため、評価を「A」としました。</p>	

指標

指標名	R3年度末(基準)	前々年度実績値	前年度実績値	R4年度実績値	目標(R10)	評価	説明
2-(1) ポンプ場の耐震化率 (%)	19.5	-	19.5	24.7	85.7	a	耐震化済ポンプ場/ポンプ場 (11場) × 100

具体的取組

	取組内容	R4年度 目標	前々年度	前年度	達成状況
		R4年度 実績			
2-①	下水道総合地震計画に基づく汚水管路の耐震化を実施します。	約230mの耐震化対策工事を行います。 南楠葉地区他において、耐震化対策工事を行いました。 管更生延長78m、布設替え延長121.9m	-	-	○
2-②	下水道総合地震計画に基づく雨水ポンプ場の耐震化を実施します。	北部ポンプ場の耐震化工事（土木、建築）2件、安居川ポンプ場と溝谷川ポンプ場の耐震診断（非線形解析）2件を実施します。 北部ポンプ場において建築物（ポンプ棟）の耐震化工事を実施しました。耐震診断（非線形解析）により安居川ポンプ場の土木構造ブロック（ポンプ井、調圧水槽）及び溝谷川ポンプ場（吐口）で安全性を確認しました。 （対策工事：建築1 安全性確認：土木3）	-	-	○

今後の方向性

年度繰越しにより遅れが生じている業務は、R5年度の完了に向け取り組みます。

安全・安心な市民生活の確保

3	浸水被害の軽減	施策評価	S
取り組みの方向性	<p>●計画降雨に対応する雨水整備を進めるとともに、近年の気候変動等に伴う降雨の集中化・激甚化を要因とした内水の氾濫による浸水被害からまちを守るため、計画降雨を超える集中豪雨や局所的な浸水に対して、地域の特性を踏まえた浸水対策や雨水流出抑制施設の設置などを進めます。</p>	<p>評価理由</p> <p>浸水被害の軽減の取組を着実に実施しているため、評価を「S」としました。</p>	

指標

指標名	R3年度末 (基準)	前々年度 実績値	前年度 実績値	R4年度 実績値	目標 (R10)	評価	説明
3-(1) 浸水地区の整備率 (%)	54.4	-	54.4	54.6	60.0	s	対策済地区数/全対策予定地区数×100

具体的取組

	取組内容	R4年度 目標	前々年度	前年度	達成状況
		R4年度 実績			
3-①	浸水対策地区の浸水対策を実施します。	<p>楠葉排水区や伊加賀地区の浸水対策工事の実施及び楠葉野田地区の浸水対策工事に着手します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 下水道浸水被害軽減総合計画に基づく楠葉排水区の工事を実施しました。(R5年度完成予定) 伊加賀地区の浸水対策工事を実施しました。 楠葉野田地区の浸水対策工事に着手しました。(R5年度完成予定) 	-	-	◎
3-②	雨水貯留施設の確保に取り組みます。	<p>浸水被害軽減のため、法及び要綱に基づく指導や開発者への協力依頼により、貯留施設の確保を図ります。</p> <p>特定都市河川浸水被害対策法に基づく開発者への指導により、686㎡の貯留施設を確保しました。また、その他の開発者への指導により、1,086㎡の貯留施設を確保しました。</p>	-	-	◎

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

水環境の保全

4	環境負荷の低減	施策評価	S
取り組みの方向性	<p>●本市の下水道は整備当初から汚水の処理と雨水の排除というそれぞれの目的に沿った分流式を採用しており、今後も、合流式よりも環境にやさしい分流式下水道により整備を行います。</p>	<p>評価理由 R4年度事業について一部年度繰越を行いました。着実に分流式下水道の整備を進めているため、評価を「S」としました。</p>	

指標

指標名	R3年度末(基準)	前々年度実績値	前年度実績値	R4年度実績値	目標(R10)	評価	説明
4-(1) 下水道処理人口普及率 (%)	97.5	-	97.5	97.6	97.8	s	処理人口/行政人口×100

具体的取組

	取組内容	R4年度 目標		前々年度	前年度	達成状況
		R4年度 目標	R4年度 実績			
4-①	分流式の下水道整備を進めます。	津田元町地区他において、約300mの公共下水道整備工事を行います。	津田元町地区他において、公共下水道整備工事を行いました。(津田元町地区 175.4m、星丘地区 9.4m) 工事は一部年度繰越ししましたがR5年6月の供用開始に向け事業を進めています。	-	-	○

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

水環境の保全

5	適正処理の推進	施策評価	S
取り組みの方向性	<p>●生活排水の適正処理を推進するため、水洗化義務期限内の水洗化に向けて取り組むとともに、期限を超過した家屋に対しては下水道の使用に向けた指導勧告を進めます。</p>	<p>評価理由 水洗化に向けた取組を実施しているため、評価を「S」としました。</p>	

指標

指標名	R3年度末 (基準)	前々年度 実績値	前年度 実績値	R4年度 実績値	目標 (R10)	評価	説明
5-(1) 水洗化率 (%)	97.5	-	97.5	97.7	98.0	s	水洗化人口/処理人口×100

具体的取組

	取組内容	R4年度 目標	前々年度	前年度	達成状況
		R4年度 実績			
5-①	水洗化率の向上に取り組めます。	水洗化（改造）義務期限の3年を超えた未水洗家屋の実態調査、指導勧告を行います。また、供用開始後3年以内の家屋所有者に対しても、法に定められた義務期限内の水洗化工事を促進するため、補助・融資あっせん制度を説明した通知文書を送付します。	-	-	◎
		義務期限を超えた未水洗家屋のうち、1,198戸について戸別訪問のうえ水洗化指導を行い、2度にわたる勧告文書を送付しました。その結果、153戸の家屋で水洗化されました。また、供用開始後3年以内の未水洗家屋所有者に対しては、補助金・融資あっせん制度を説明した文書の送付など、義務期限内の水洗化に向けて積極的に取組みを進めました。			

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

快適な生活環境の創造

6	汚水整備	施策評価	S
取り組みの方向性	●住居系地域の汚水整備は概成しましたが、引き続き市内に点在する未整備地区について汚水の整備を進めていくことにより、公衆衛生を向上させ、快適な生活環境を創造します。		評価理由 R4年度事業について一部年度繰越を行いました。着実に整備を進めているため、評価を「S」としました。

指標

指標名	R3年度末(基準)	前々年度実績値	前年度実績値	R4年度実績値	目標(R10)	評価	説明
6-(1) 下水道整備人口普及率 (%)	97.5	-	97.5	97.6	97.8	s	整備人口/行政人口×100

具体的取組

	取組内容	R4年度 目標	前々年度	前年度	達成状況
		R4年度 実績			
6-①	分流式の下水道整備を進めます。	津田元町地区他において、約300mの公共下水道整備工事を行います。	-	-	○
		津田元町地区他において、公共下水道整備工事を行いました。(津田元町地区 175.4m、星丘地区 9.4m) 工事は一部年度繰越ししましたがR5年6月の供用開始に向け事業を進めています。			

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

快適な生活環境の創造

7	雨水整備	施策評価	A
取り組みの方向性	<p>●人命や財産を守り、交通などの都市機能を確保するため、計画降雨に対応する雨水整備を進め、安心して生活できる環境を創造します。</p>		<p>評価理由</p> <p>計画降雨に対する雨水整備の取組を実施していますが、遅れが生じていることから評価を「A」としました。</p>

指標

指標名	R3年度末(基準)	前々年度実績値	前年度実績値	R4年度実績値	目標(R10)	評価	説明
7-(1) 主要な幹線管渠の整備率 (%)	46.3	-	46.3	46.3	46.9	a	整備延長/計画延長×100

具体的取組

	取組内容	R4年度		前々年度	前年度	達成状況
		目標	実績			
7-①	下水道計画に基づく雨水整備を進めます。	藤阪地区の実施設計に取り組みます。	藤阪地区の実施設計に取り組みました。地下埋設物の移設協議に時間を要したため、R5年7月まで期間延期をしました。	-	-	○

今後の方向性

実施設計が完了次第、工事実施に向け着実に事業を進めます。

8	財政基盤の強化	施策評価
取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ●下水道事業を効率的かつ継続的に提供するため、将来予測に基づいた投資計画や財政計画を適切にマネジメントすることで、経営の健全化と経営基盤の強化に取り組みます。 ●将来の使用水量の減少を見据えた使用料体系を実現し、健全かつ持続可能な事業運営を行うため、総括原価に基づく使用料制度の構築に向けた見直しを定期的実施します。 ●下水道サービスの提供にあたっては、社会環境の変化により多様化するお客さまニーズを的確に把握するとともに、サービス提供コストが下水道使用料に与える影響を考慮し、判断していきます。 ●汚水事業の新規整備にあたっては、事業効果を含めて慎重に判断しながら実施します。 ●下水処理水の再利用については、事業手法や費用対効果も含めて検討し、事業のあり方を見直します。 	評価理由 決算認定後に評価

指標

指標名	R3年度末(基準)	前々年度実績値	前年度実績値	R4年度実績値	目標(R10)	評価	説明
8-(1) 企業債残高対使用料収益比率(%)	587.9	-	587.9	-	452.4	-	企業債残高(公的負担分除く) / 下水道使用料 × 100

具体的取組

	取組内容	R4年度 目標	前々年度	前年度	達成状況
		R4年度 実績			
8-①	企業債発行額を抑制します。	事業に対する補助金等の財源確保に努め、企業債発行を抑制します。 (R4年度指標計画値：622.7%) 決算認定後に記入	-	-	
8-②	国等の補助制度の活用に取り組みます。	事業実施において社会資本整備総合交付金や防災・安全交付金等の補助制度を活用します。 汚水整備、浸水対策、地震対策、ストックマネジメントの各事業に国の交付金を活用しました。	-	-	◎
8-③	R6年度の総括原価の算定に向けて社会経済情勢を踏まえた収支計画の策定準備に取り組みます。	現行料金による経費回収状況を確認します。 決算認定後に記入	-	-	
8-④	下水道使用料改定の必要性の検討に向けた有収水量や使用量収益の動向を把握します。	調定水量や調定金額について、推移モニタリングを実施します。 各月ごとの調定水量や調定金額について、前年同月との比較などモニタリングを実施しました。	-	-	◎

令和4年度「枚方市下水道ビジョン 2022」施策評価シート

8-⑤	下水道使用料改定の必要性について検討していきます。	下水道使用料の改正の必要性について、現行制度による経費回収状況の把握を行います。 下水道使用料の改正の必要性について、現行制度による経費回収状況の把握を行いました。	-	-	◎
8-⑥	汚水の新規整備については、新たな技術も検証し、事業効果を含めた慎重な検討をしながら取り組みます。	事業効果を含めた検討を行い、津田元町地区他において、公共下水道整備工事を行います。 事業効果を含めた検討を行い、津田元町地区他の公共下水道整備工事を行いました。	-	-	◎

今後の方向性

決算認定後に記入

下水道事業を持続するための基盤づくり

9	運営基盤の強化	施策評価	S
取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ●維持管理の時代に適した人（人材）・モノ（施設）・カネ（財源）が一体となったアセットマネジメントや、適切な被害想定にもとづく防災・減災を推進するという考え方の下、ハード・ソフト対策を組み合わせた非常時のクライシスマネジメントなどを確立していきます。 ●今までの考え方や取り組みにとらわれない業務の再編や執行の効率化等、検証や見直しによる経費の抑制を行い、持続可能な事業運営に取り組みます。 ●人材育成や技術継承はもとより、組織力強化のために業務に精通する専門性の高い職員を適切に配置できる体制を継続します。 ●公民連携、広域化・共同化などの新たな手法に取り組みます。 	評価理由 運営基盤の強化に向け、各種施策の取り組みが実施されているため、評価を「S」としました。	

指標

指標名	R3年度末 (基準)	前々年度 実績値	前年度 実績値	R4年度 実績値	目標 (R10)	評価	説明
—	—	—	—	—	—	—	—

具体的取組

	取組内容	R4年度 目標	前々年度	前年度	達成状況
		R4年度 実績			
9-①	戦略的かつ円滑な事業運営の推進を図るため、必要に応じて組織の再編を行います。	より戦略的かつ円滑な事業運営の推進や危機管理体制の強化など、組織体制の充実に向け検証を行います。	-	-	◎
9-②	経営戦略の見直しの検討を行います。	経営戦略の中間見直しに向けて、R3年度決算の検証を行います。	-	-	◎
9-③	各種下水道計画の見直しを検討します。	R5年度に予定する下水道事業経営戦略の中間見直しにあわせ、下水道各種計画の見直しのため、実施事業の資料を収集します。	-	-	◎
		R5年度の下水道整備基本計画の中間見直し、下水道ストックマネジメント計画、下水道総合地震対策計画の見直しに向け、資料収集を行いました。	-	-	◎

令和4年度「枚方市下水道ビジョン 2022」 施策評価シート

9-④	災害対策や危機事象に迅速に対応できる体制を確立します。	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害等の危機事象に備えたシステム等の研修を実施します。 ・マニュアル等については、必要に応じて随時更新を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ・災害に備えたシステム等の研修（計6回）を実施しました。 ・大規模災害等の危機事象に備えて、日頃からデジタルMCA無線（携帯局28台）の活用を図りました。 ・市民等からの土のう要請13件に対し、347袋の配付を行いました。 	-	-	◎
9-⑤	災害用備蓄品の適切な管理を行います。	<p>大雨等の災害事象に備えるため、土のうの適正な保管数を維持するため、土のう作成を行います。</p> <p>土のうの適正な保管数に向けて、土のう作成を行いました。</p>	-	-	◎
9-⑥	近隣市や事業者との応援協力体制を確立します。	<p>災害協定先の拡充については、今後の情勢を踏まえ、業務内容等について精査します。</p> <p>災害協定の締結拡充に向けて、関係機関と協議・検討を行いました。</p>	-	-	◎
9-⑦	適正に予算を編成するとともに執行を管理します。	<p>社会情勢等を踏まえ、適正に予算を編成するとともに執行を管理します。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響による水需要の変動が続く中、事業の必要性を十分に検討するとともに、これまでからの継続事業についてもそのあり方を見直しました。</p> <p>①維持管理等の経常的経費の精査や財源の確保 近い将来に更新を行う予定の施設の修繕にあたっては、更新までの間の機能維持に必要な最低限の修繕を行うこととしました。また、施設の更新にあたっては、国庫補助金の活用を前提とした事業実施の検討を行うこととするとともに、幅広い財源確保に努めました。</p> <p>一方で、動力費等の高騰による影響が経営に大きな負担となっており、物価高騰を含め予算の編成を行いました。</p> <p>②採算性を重視した事業決定 新たな整備事業を決定するにあたっては、事業の目的や優先順位に加えて、その事業により発生する減価償却費や維持管理費と、得られる収入を比較した上で、事業実施を検討し、事業決定を行いました。</p>	-	-	◎
9-⑧	下水道使用料等の債権の徴収強化を行います。	<p>納期限を経過した下水道使用料等について、電話催告、訪問徴収等を行うとともに、滞納状況に応じて弁護士名を記載した催告や滞納処分等の法的措置に取り組み、徴収率の向上に努めます。</p> <p>納期限を経過した下水道使用料等について、電話催告、訪問徴収等を行うとともに、滞納状況に応じて弁護士名を記載した催告や滞納処分等の法的措置に取り組み、徴収率の向上に努めました。（R4年度見込み・5月末時点：99.48%）</p>	-	-	◎

令和4年度「枚方市下水道ビジョン 2022」 施策評価シート

9-⑨	保有資産の有効活用に取り組みます。	市内8箇所の下水道マンホール蓋について、新規広告掲載を募集します。 市内13箇所のうち、5箇所で下水道マンホール蓋への広告を掲載しました。（契約期間はR2年度からR6年度） <R4年度分広告料（5箇所）294,360円>	-	-	○
9-⑩	雨水ポンプ場における運転、維持管理業務の民間委託拡充に向けた検証を行います。	サダポンプ場において民間委託前と同様に運転、維持管理業務を行えるよう監督し、拡充に向け検証を行います。 民間委託前と同様に降雨時の対応や日常の維持管理業務の実施状況を確認し、雨水ポンプ場の民間委託拡充に向け検証しました。	-	-	◎
9-⑪	人材育成や技術継承を行い、組織力の向上を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> 建設事業の設計や施工管理など、技術的・専門的な業務が多いため、必要な専門研修に積極的に参加し、技術力の向上を図っていきます。 技術継承のための技術者の育成及び業務の効率化については、事業運営の中で引き続き取り組んでいきます。 <ul style="list-style-type: none"> 新たに上下水道局に配属された19名の職員を対象に、上下水道局各課の業務を紹介する新入職員研修会を6月17日に開催しました。 職場環境の整備等を図るため、8月24日に「ハラスメントの防止について」職員研修会を実施し、16人の参加がありました。 職員の安全衛生意識の高揚を図るため、1月20日に「食生活・食事バランスについて」安全衛生研修会を実施し、40人の参加がありました。 	-	-	◎
9-⑫	公民連携の新たな手法の活用を検討します。	枚方市の公民連携プラットフォームを活用して民間提案の募集を行います。 枚方市の公民連携プラットフォームを活用し、新たな雨天時浸入水調査手法を検証しました。また、国の支援を受け、下水道事業における公民連携について検討を行いました。	-	-	◎

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

下水道事業を持続するための基盤づくり

10	積極的な広報活動	施策評価	S
取り組みの方向性	●下水道に関する取り組みや経営状況について情報発信を行い、積極的な広報活動に取り組みます。	評価理由 下水道週間に合わせた情報発信など積極的な広報に努めたため、「S」評価としました。	

指標

指標名	R3年度末 (基準)	前々年度 実績値	前年度 実績値	R4年度 実績値	目標 (R10)	評価	説明
—	—	—	—	—	—	—	—

具体的取組

	取組内容	R4年度 目標	前々年度	前年度	達成状況
		R4年度 実績			
10-①	下水道事業全般の情報発信（広報ひらかた、ホームページ、SNS、出前講座等）を実施します。	下水道事業の取り組みや周知が必要なものについて、広く情報発信するため、ホームページやSNSを引き続き活用していく。また、ホームページについてはさらに見やすく、わかりやすい案内とするため、リニューアルを行い、定期的又は必要に応じて整理し、管理していきます。 ・下水道事業について、市民に広く周知するため、「下水道週間」に合わせ、「まちの安全・安心を支える下水道」「大雨時は汚水排水量の削減を」「下水道への接続のご協力を」について、情報発信を行いました。また、下水道事業の理解を広めるため、マンホールカードを市民等に配布しました。 ・小学校と市内の団体に対して、出前講座2件を実施しました。	-	-	◎

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

下水道事業を持続するための基盤づくり

11	環境対策と社会目標の実現	施策評価	S
取り組みの方向性	<p>●「SDGs」、「Society5.0」、「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ宣言」などの社会目標の実現に向けて、下水道事業を通じて持続可能な社会をめざします。</p>	<p>評価理由</p> <p>下水道事業から発生するリサイクル可能資源については、積極的なリサイクルに努めました。公用車の電動車導入に向けた取り組みの方針決定を行うなど、省エネルギー化に努めているため、評価を「S」としました。</p>	

指標

指標名	R3年度末(基準)	前々年度実績値	前年度実績値	R4年度実績値	目標(R10)	評価	説明
11-(1) 建設副産物リサイクル率(%)	100.0	-	100.0	100.0	100.0	s	再生資源化施設搬出量/建設副産物発生量×100

具体的取組

	取組内容	R4年度 目標	前々年度	前年度	達成状況
		R4年度 実績			
11-①	建設副産物等の再生資源として有効利用します。	現場で発生する特定建設資材は、再資源化施設に搬出します。 工事現場でのアスファルトやコンクリートがらの発生量1,842 tについて、有効利用のためリサイクル施設への搬出を行いました。	-	-	◎
11-②	施設の修繕・更新時における環境負荷低減に取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> 北部ポンプ場の水銀灯をLED照明に取り換えます。 工事で使用する建設機械については排出ガス対策型を使用します。 	-	-	◎
		<ul style="list-style-type: none"> 北部ポンプ場の水銀灯をLED照明に取り換えました。 工事で使用する建設機械については排出ガス対策型を使用しました。 			

令和4年度「枚方市下水道ビジョン2022」施策評価シート

11-③	施設及び公用車のエネルギー削減に取り組み、二酸化炭素排出量の削減に努めます。	<p>前年度を基準に1%削減します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気使用量が目標値203,490kWhのところ216,865kWhで1%の削減が未達成でした。 ・ガス使用量が目標値28,050m³のところ32,295m³で1%の削減が未達成でした。 ・ガソリン使用量が目標値292Lのところ285Lで1%の削減を達成しました。 ・軽油使用料が目標値244Lのところ243Lで1%の削減を達成しました。 	-	-	○
11-④	下水道ビジョン2022に関する各課の計画目標・取り組み内容の実現による「SDGs」、「Society5.0」、「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ宣言」等を実現します。	<p>【1】利用者の利便性向上のため、下水道台帳をホームページに公開します。</p> <p>下水道台帳をホームページに公開しました。</p>	-	-	完了
		<p>【2】遠方監視システムをPHS回線から4G回線へ改修しインターネット回線によるデータ通信に変更を行います。また、遠方監視システムのクラウド化を行います。（対象施設：汚水中継ポンプ場、雨・汚水小ポンプ場、北部調整槽）</p> <p>小ポンプ施設遠方監視装置更新工事を行いPHS回線から4G回線へ改修しインターネット回線によるデータ通信に変更しました。また、遠方監視システムをクラウド化しました。（対象施設：汚水中継ポンプ場、雨・汚水小ポンプ場、北部調整槽）</p>	-	-	完了
		<p>【3】市民や事業者の利便性向上や非接触型行政サービスの提供等を目的とし、紙媒体で運用している各種申請手続き等について、LoGoフォーム等を活用したオンライン化の推進を図るため、他市の事例や手法を参考とするなど、具現化に向けた検討や課題検証を行います。</p> <p>R5年度の運用開始に向け、下水道排水設備指定工事店の指定手続き等のオンライン化に取り組みました。</p>	-	-	◎
		<p>【4】脱炭素社会の実現に向けて特殊自動車及び貨物自動車（軽貨物含む）を除き、公用車の電動化を検討します。</p> <p>上下水道局の公用車の電動化に関する方針を策定しました。</p>	-	-	◎

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。